

「1人1台端末」を活用した 出水市の取組

授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の活用



学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」を活用して、教師が動画やWebページ、WordなどをPDFに変換した資料をクラス全員または個人に配布し、資料を表示した画面を配信して書き込みながら説明したり、児童生徒から回収した考えや答えを大型テレビに一覧表示し共有したりして、児童生徒一人一人の状況を把握しながら授業を展開できます。児童生徒は問題を解答したノートまたは考えをまとめたノートを撮影して教師に提出したり、1枚のカードをグループで共有して協働で作成・編集したりすることができ、リアルタイムに考えを共有しながら学び合います。また、国語の音読、英語の発音、音楽のリコーダー演奏などを録音・録画して何度も繰り返し練習したり、発表しながら録音・録画したりすることもできます。(写真：左から鶴荘学園後期課程と大川内中学校の集合学習、米ノ津東小学校、米ノ津小学校)

台湾の学校とオンライン交流



一人一人が台湾の埔里鎮(ブリーチン)と韓国の順天市(スンチョンシ)の児童生徒とつながり、英語で交流・議論を行います。海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、児童生徒の発信力を高めます。これまで11校が37回のオンライン交流を実施しました。(写真：高尾野中学校)

ビジュアルプログラミング言語による作品制作



ビジュアルプログラミング言語とは、プログラムをテキストで記述するのではなく、視覚的なオブジェクトでプログラミングするプログラミング言語です。作品の制作を通して、プログラミングに親しみ、プログラミングの思考力や創造性、問題解決能力等を育成します。(写真：左から江内小学校、米ノ津小学校)

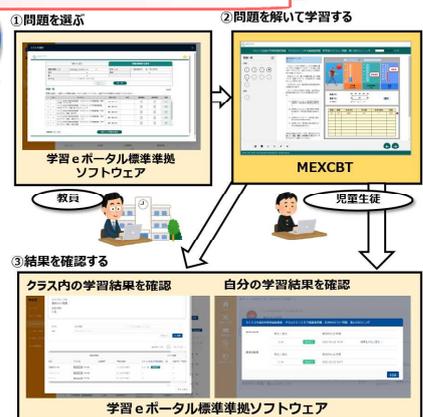
「1人1台端末・高速通信環境」を活かした教材等

文部科学省CBTシステム (MEXCBT:メクビット)

児童生徒が学校や家庭において、国や地方自治体等が作成した問題を活用し、オンライン上で学習や自動採点、分析ができるCBT (Computer Based Testing: コンピュータを使った試験方式) システムのことで、動画、音声を取り入れた出題や試行錯誤が必要な出題ができる特性を活かして、「思考力」や「問題発見・解決能力」などの、これまで測定が困難だった能力の測定が可能になることが期待されており、現在、大学入試センターでは、大学入学共通テストにおけるCBTを活用した出題について調査研究が進行しています。

また、令和5年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査(全ての中学校)及び生徒質問紙調査(一部の中学校)については、本システムを活用し、オンライン方式で実施されることが決定しており、準備及び対策が進められています。

なお、本市立学校21校すべてに導入済みで、授業や家庭学習で活用しています。



学習者用デジタル教科書

新学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難低減のため、学習者用デジタル教科書が制度化されました。これにより、これまでの紙の教科書を主たる教材として使用しながら、必要に応じて学習者用デジタル教科書を併用することができることとなりました。

端末に表示して使うデジタル教科書は学ぶ内容は紙と同じですが、文字や図の拡大、漢字にルビを振る、ペンやマーカーで書き込む、音声や動画を再生するなど利点が多く、英語ではネイティブ・スピーカーの発音を確認することもでき、学習方法が広がります。

本市立学校では小学5年～中学3年の英語及び算数・数学または理科のデジタル教科書を全児童生徒に配布しています。

また、国はデジタル教科書を2024(令和6)年度から小学5年～中学3年の英語、2025年度から算数・数学で本格的に導入する方針です。

